

年頭のご挨拶

医療法人社団輝生会は、2002年に初台リハビリテーション病院を開設して本年度で12年目となり、2008年に船橋市立リハビリテーション病院を開院して6年目に入ります。また、医療法人財団新誠会が2003年開設した在宅総合ケアセンター元浅草、2004年開設の在宅総合ケアセンター成城の2拠点は、2010年に医療法人社団輝生会に事業移転がなされ、現在、初台、船橋、元浅草、成城の4拠点で事業展開する法人となり3年以上が経過することになりました。

4拠点における事業内容を簡単明瞭に表現すれば、「寝たきりにしない、寝かせきりにしない医療サービスを提供すること」です。具体的には、急性期の病院から回復期リハビリテーションを必要とする患者さんを可能な限り早く受け入れ、入院による集中的・総合的リハビリテーションを提供し在宅復帰を可能とすること。さらに在宅復帰後は、通院・通所・訪問・短期入院などによるリハビリテーションを中心とした在宅医療・在宅ケアサービスを提供することにより、寝たきりとならずに安心・安全な在宅生活が継続できるよう支援することを使命としています。

現在では1,000を超える常勤職員を擁する法人となりましたが、基本理念の筆頭に「人間の尊厳の保持」を掲げ、医師、薬剤師、看護師、介護福祉士、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、社会福祉士、臨床検査技師、放射線技師、管理栄養士、栄養士、調理師、医療事務等の専門職が、職種を超えたチームアプローチで使命を全うすることになりました。

現在まで多くの方々に支えられて事業を継続することができましたことを御礼申し上げるとともに、更なるサービスの質の向上を目指して、なお一層の努力をいたす所存です。

本年もよろしくお願い申し上げます。



医療法人社団 輝生会
理事長 石川 誠

接遇コンテストが開催されました！

私どもの法人は、『人間の尊厳の保持』を理念として接遇の向上を目指しています。その取り組みの一環として接遇優秀者を選出するコンテストを開催し、特に優れた13名が法人の忘年会で表彰されました。また投票率が100%であったチームにはお菓子がプレゼントされ、大いに盛り上がりしました。

スタッフの接遇についてはお褒めもお叱りもいただくことがありますが、今後も一層の向上に努めてまいります。当法人の利用者の皆さまにはスタッフの接遇を通して、元気になっていただいたり、頑張ろうと思っていただくことができたら嬉しく思います。



法人総合企画室 患者サービス向上担当
取出涼子 (SW)

基本理念と方針

- 「人間の尊厳」の保持
- 「主体性・自己決定権」の尊重
- 「地域リハビリテーション」の推進
- 「ノーマライゼーション」の実現
- 「情報」の開示

患者さまの権利

- 人権を尊重される権利
- 最善の医療を受ける権利
- 自らの意志で選択・決定する権利
- プライバシーの保護を求める権利
- 自分の診療の情報や記録を知り、求める権利

リハビリテーション・ケア合同研究大会 千葉2013

日本中にリハケアの根を張ろう! ~いちばんの笑顔を目指して~

大勢の人の心にリハの灯をともし、
大成功のうちに終了!!!

日本を代表するリハビリテーションに関わる6団体(日本リハビリテーション病院・施設協会、回復期リハビリテーション病棟協会、全国地域リハビリテーション研究会、日本訪問リハビリテーション協会、全国デイ・ケア協会、全国地域リハビリテーション支援事業連絡協議会)が合同で開催する、リハビリテーション・ケア合同研究大会が、2013年11月23、24日の2日間にわたって、幕張メッセ(千葉県千葉市)において開催されました。



大会長は船橋市立リハビリテーション病院院長の梅津博道さん。実行委員会発足より、この大会を私たち医療法人社団輝生会の力を結集させて、すばらしい大会にしようという気持ちで向かいました。日々の業務のかたわら準備を進めながら、いよいよ大会当日を迎えました。

魅力的な講師をお呼びしての5つのシンポジウム、病期別のリレー講演、トピックの話題を厳選した5つの教育講演と、プログラムの内容も盛りだくさんになりました。当日の様子を、ご紹介したいと思います。

お互いを「先生」と呼ばない学会に…

私たち医療法人輝生会では、従来の医師を頂点としたヒエラルキー型のチームでなく、すべての専門職が対等で、何でも話し合えるチームアプローチを目指しています。輝生会では、すべての職種が「～さん」と呼び合い、「先生」という呼び名は用いません。本大会ではこのコンセプトを導入し、会場内では「～先生」と呼び合わないようお願いいたしました。

驚かれた方もいたかもしれませんが、新鮮に感じ、新しい医療・福祉のあり方を受け取られた方もいらしたようです。司会や座長の方々も快くご理解くださり、会場内はどこにも「先生」のいない大会となりました。

視聴者参加型の学術集会、
アナライザーの使用

学会に行っても、人の話を聞いているばかりで、自分の意見を一度も言えなかった、という経験をされる方も多いようです。リハビリテーションは、みんなが参加し、みんなで議論することが基本。本大会の目玉の1つは、参加者がアナライザーという機器を手に持ち、ボタンを押すことで司会者の質問に答え、その結果が即座に目前に示される、という視聴者参加型の企画を行ったことです。

開催地企画シンポジウムとして、「チームアプローチを実践する為の輝生会の挑戦」～患者家族の笑顔を求めて～というセッションを行いました。冒頭に司会者より、「日ごろチームアプローチはできていますか」という質問に、参加者が一斉にスイッチを押すと、「①できている7%、②少しできている38%、③少ししかできていない45%、④できていない10%」という結果が、即座に示されました。なかなか考えさせられる結果でした。

このセッションでは、常に笑顔でチームアプローチの実践を目指してきた、輝生会の歴史と現在の挑戦を紹介させていただきました。最後の質問「今日のシンポジウムを聞いて、何かそれぞれの職場に持ってかえることができるものはありましたか」という質問に「①はい90%、②いいえ10%」という結果であり、企画者たちはしっかりと手ごたえを感じることができました。

「模擬カンファレンス」には、
全国から100名の専門職が参加

同じく、参加型の企画として「模擬カンファレンス」を実施しました。事前に全国から100名の参加申し込みがあり、当日会場は大勢の熱気にあふれる雰囲気となりました。ほとんどのの方が、初対面の人とケースについて話し合うという



体験をしたことがない人ばかりで、新鮮な経験をしていただきました。これからの地域リハのリーダーには、職種を超えてディスカッションを展開する力が求められます。多くの職種が参加し意見を述べ合い、患者さま利用者さまのことについて、忌憚のない意見を交換しあえることは、これからの高齢者社会を支えるカギとなるかもしれません。リハビリテーションの力を信じることができた企画になりました。

849題の演題が集まり、 活発なディスカッションが展開

史上2番目の演題数が集まり、幕張メッセの各会場では、熱心な発表と質疑応答が行われました。若手スタッフのはじめの学会発表、1人職場のスタッフの発表、急性期から回復期、生活期まで、最先端の現場で起きていることを語り合う、貴重な機会となりました。多くのセッションでは、はじめて座長を経験した方も多く、リハビリテーションの力を次の時代へとつなげる活気あふれる研究発表会となりました。

チーバくん、登場!! 大会長とどっちが人気者?!

いくつもの人気キャラクターが知られる千葉県ですが、なんと大会1日目夜の懇親会に、千葉県のマスコットチーバくんが登場し、大人気を博しました。チーバくんは、翌日もたびたび会場に出没、落花生が有名な千葉県ですが、千葉県を訪れた記念にかわいい珍客と一緒に写真を熱望した方々も多いようでした。

人気者といえば、大会長の梅津さん、磨きのかかったジョークで、「もっとも笑いをとった大会長講演」との評価で、大会を通じて話題を呼んでいました。大会の成り



photo©チーバくん

行きが気になって笑顔の少なかった大会長も、参加者の笑顔とともに、最後は一番の笑顔になりました。

オリエンタルランド、 お客様を大切にする心とリハビリテーション

本大会の注目の1つが、東京ディズニーランドの経営母体であるオリエンタルランドからお越しいただいた役員の永嶋悦子氏による教育講演、「ハピネスへの取り組み」です。東京ディズニーランドといえば、どのキャスト(スタッフ)も気持ちよくお客様をお迎えするための、接客教育が行き届いていることで有名です。当日は、スタッフに行っている教育や行動基準について熱く語っていただきました。永嶋氏のお話には、医療の現場でも活用できる接客意識向上のための斬新なアイデアや工夫がたくさん含まれており、参加者は皆さんメモをとったりうなずいたり、興味深く聞いてくださいました。テーマパークで働くキャストの心からの笑顔は本当に美しく、私たちをハッピーにしてくれます。リハビリテーションでも同じはず。障害を持った方々の心をハッピーにするために、笑顔とその教育が大切であることを再認識できる、貴重な機会となりました。

本大会を通じて

障害を持つということ、老いていくということは、簡単に解決することは困難な、苦しく厳しい現実であると思います。それをサポートする私たちリハビリテーション専門職は、誰よりも患者さま利用者さまの気持ちを受け止めることができる、そして笑顔になっていただけるように支援できる、そんな力をもっていなければならないと思います。

今大会では船橋を中心とした千葉県内のリハ関連病院・施設から多くの実行委員を出していただき、多大な協力を得ることができました。またボランティアとして学生さんにも多数、協力していただきましたこと、重ねて御礼申し上げます。

日本中のリハビリテーションを考える人々が一堂に会し、今年も熱くリハビリテーションを語り合いました。準備や運営に関わった輝生会スタッフ一同、参加された皆様のご活躍をお祈りするとともに、障害を持った方々が少しでも元気に笑顔になられるように、これからも頑張っていきたいと思っています。

(文責／総合企画室 森田 秋子)

初台 代々木もちつき唄からはじまった 風情のある年末恒例の餅つき大会

昨年12月28日、毎年の年末行事として餅つき大会を行いました。当院では、入院・外来患者さまにもご協力していただき、杵とうすを使って手でつきます。これには手前味噌ながら「すごい!」と感心してしまいます。

今年も代々木もちつき唄保存会の皆さまにご協力いただき、区指定無形民俗文化財となっている代々木もちつき唄から会が始まりました。餅つきは、代々木村の時代から初台、代々木、西原、上原一帯で行われており、「もちつき唄」は餅をつく前段のこねる作業で唄われていました。農家の減少等で、次第に餅つき自体が行われなくなりましたが、「もちつき唄」が忘れられてしまふのを惜しんだ有志が集まりこの会が結成されたそうです。



成城 ひとつきひとつきに 健康への願いを込めた餅つき大会開催

2013年12月30日、在宅総合ケアセンター成城 1階の通所リハビリ施設内にて餅つき大会を行いました。来年も、一年健康的に暮らせようという願いを込めて、当センターをご利用いただいている皆さまと一緒に一突き一突き力を込めてつきました。

ついた餅は、早速参加された皆さんの手で鏡餅になり、センター各所に飾らせていただいております。本年も皆様にとって幸多い年となりますことをお祈り申し上げます。



突き立てのお餅が
立派な鏡餅に!



船橋 病院機能評価の 認定をいただきました

船橋市立リハビリテーション病院は2013年7月、公益財団法人日本医療機能評価機構が実施する「病院機能評価」を受審しましたが、2013年12月6日付で認定を受けることができました。

日頃行っている医療サービスや活動をありのままに伝え、認定基準に達していると評価されたことは嬉しいですが、これがゴールではありません。これからも、課題の改善に取り組みながらより良いリハビリテーションサービスを提供できるよう職員一同邁進していきますので、どうぞよろしくお願いいたします。



元浅草 明けましておめでとうございます 本年もよろしくお願いいたします

在宅総合ケアセンター元浅草では全コースの通所リハビリテーションの送迎を開始しました。

今までは1日コースのみの送迎でしたが、昨年12月より1~2時間、3~4時間、6~8時間コースの送迎が可能となりました。

在宅総合ケアセンター元浅草では、今まで送迎車3台で運行しておりましたが新車を1台導入しました。ナビやバックモニターも搭載し軽快に運行しております。

今後ご利用者様が安心して乗っていただけるよう心がけてまいります。



季刊情報誌「輝net」 編集・発行 医療法人社団 輝生会 本部/〒151-0071 東京都渋谷区本町3-52-6

初台リハビリテーション病院
船橋市立リハビリテーション病院
在宅総合ケアセンター元浅草
在宅総合ケアセンター成城

〒151-0071 東京都渋谷区本町3-53-3
〒273-0866 千葉県船橋市夏見台4-26-1
〒111-0041 東京都台東区元浅草1-6-17
〒157-0072 東京都世田谷区祖師谷3-8-7

TEL.03-5365-8500
TEL.047-439-1200
TEL.03-5828-8031
TEL.03-5429-2292

<http://www.kiseikai-reha.com>
<http://www.hatsudai-reha.or.jp>
<http://www.funabashi-reha.com>
<http://motoasakusa-reha.com>
<http://seijo-reha.com>

本誌へのご意見ご要望はメールにてお寄せください。 info@hatsudai-reha.or.jp